

さわやかだより

9月は「世界アルツハイマー月間」

この街で 笑顔で生きる 認知症

洞 爺湖町で令和2年度に介護認定を受けた人は846人います。そのうち、認知症のため認定された人は216人で約4人に1人の割合となっていて（洞爺湖町介護分析より）、認知症は身近な病気となっています。

◆毎年9月は「世界アルツハイマー月間」

「国際アルツハイマー病協会」は、認知症への正しい理解を広めるために世界中で啓発活動を行っています。日本では「認知症の人と家族の会」が中心となり、全国各地で啓発活動を行っています。



認知症と診断されたら

自分が認知症になったとき、受け入れることは簡単ではありません。今後の生活や経済的な不安、家族に対する思いなど心配は尽きません。また、家族も大切な人が苦しむ姿にいたたまれなさや悲しみを感じており、体調や生活への不安を抱えています。



認知症と診断されても

最初はショックでも、気持ちに折り合いをつけ、前向きに自分らしく暮らしている多くの認知症の人と家族がいます。

◆認知症やその家族とともに笑顔で過ごせる街に

地域包括支援センターでは、認知症に関する相談や認知症について正しい知識や対応を知るための出前講座などを行っています。ぜひ、連絡ください。



認知症とともに生きるための8カ条

- ①認知症の診断で人生は終わらない
 - ②認知症の正しい情報を得よう
 - ③制度を知り、活用しよう
 - ④家族だけで抱え込まないで
 - ⑤仲間と支援者を探そう
 - ⑥職場の上司や親戚などに病名を伝えよう
 - ⑦社会や地域とつながろう
 - ⑧家族で話し合っておきましょう
- （出展：公益社団法人認知症と家族の会
世界アルツハイマー 2021 リーフレット）

問合せ 地域包括支援センター ☎ 76-4822)